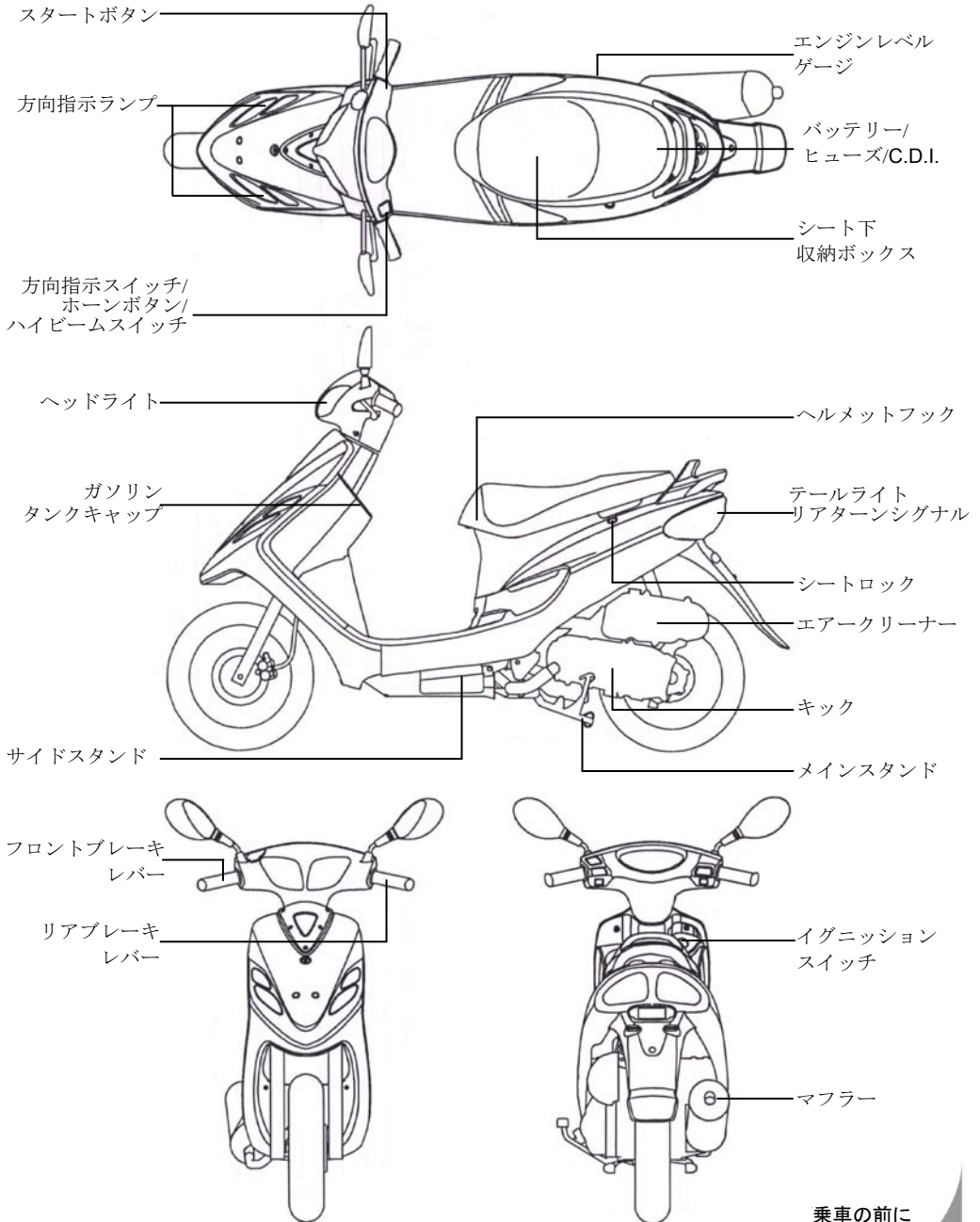


1. 内容	1
2. SYM車の保証	3
3. メンテナンスレコード	4
定期点検整備の記録	4
その他 臨時整備の実施記録	5
油脂液類・消耗品の交換記録	6
SYMからのおすすめ点検整備記録	9
4. コントロールロケーション	10
5. ご乗車の前に	11
6. 安全運転	11
7. ドライビング	12
8. 純正スペアパーツの使用	12
9. 各種機能の使い方	13
ゲージ	13
イグニッションスイッチの操作	14
ボタンの使い方	15
ヘルメットフック	16
シートロック	16
シート下収納ボックス	16
ガソリタンクキャップ	16
ブレーキ	17
10. エンジン始動時の重要事項と注意	18
11. 走り出しを快適に	19
スロットルバルブコントロール	19
駐車方法	19
12. 走行前の点検とメンテナンス	20
日常の点検	20
エンジンオイルの点検と交換	21
ガソリンの点検	22
トランスミッションオイルの点検と交換	22
スロットルバルブクリアランスの調整	22
ブレーキの遊びの点検と調整	23
ディスクブレーキの点検 (モデルにより異なる)	24

タイヤの点検.....	25
ステアリングハンドルフロントショックアブソーバーの点検.....	25
バッテリーの点検とメンテナンス.....	26
ヒューズの点検と交換.....	27
方向指示器とホーンの点検.....	27
フロント及びリアライトの点検.....	27
ブレーキライトの点検.....	28
スパークプラグの点検.....	28
ガソリン漏れの点検.....	28
車体各部の潤滑系の点検.....	28
エアクリーナーの点検.....	29
13. 異常事態やトラブルの場合	30
エンジンがかからない時の診断.....	30
14. C.D.I. 電気イグニッションシステム	30
15. ガソリンについて	30
16. トランスミッションオイル	30
17. 2 輪車走行上の注意	31
18. 定期メンテナンススケジュール	32
19. 諸元表	33
20. あとがき	34

HK10V SERIES



このマニュアルでは、スクーターの正しい使い方とともに安全走行、簡単な点検方法などをご紹介します。より快適で安全な走行のためにも車輛の取扱いに慣れた方も独自の装備や取扱いがありますので、必ずこの取扱説明書をお読み下さい。

お買い上げの時にはこの説明書をもとに以下の事について SYM 特約店より説明をお受け下さい。

- 正しいスクーターの使い方
- 乗車前の点検とメンテナンス
- 保証内容及び保証期間

ご愛用を感謝いたします！

お客様のスクーターの性能を最大限に活かすために、定期点検及びメンテナンスは必ず行って下さい。新車の場合、最初の 300km 走行時にお買い上げの SYM 特約店に車輛をお持込のうえ、初期点検をお受け下さい。その後は、走行 1000km 毎に定期点検を SYM 特約店で行って下さい。

- 車輛の仕様、その他の変更により、このマニュアルの内容と実車が一致しない場合がございます。ご了承下さいますようお願い申し上げます。

6. 安全運転

走行時はリラックスして、運転に適切な服装であることが大変重要です。交通ルールを守り、正しく運転しましょう。一般に多くの人は新車購入時はとても慎重に運転されますが、慣れてくると無謀な運転をしがちになり、事故やトラブルを引き起こしやすくなりますので注意しましょう。

忘れないで下さい！

- 乗車時はヘルメットを必ず着用して下さい。また、あご紐はしっかりと締めて正しくかぶりましょう。
- 裾の広いズボンや袖口の広いジャケットの着用はブレーキ操作など、運転操作の邪魔になり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けて下さい。
- 袖口のびったりした服装を心がけて下さい。
- 走行時にはハンドルを両手で握って下さい。絶対に片手運転はしないで下さい。
- 制限速度は必ず守って下さい。
- かかとが低く、くるぶしまで覆う靴を着用して下さい。
- スケジュールに従って定期点検とメンテナンスを必ず行って下さい。点検、メンテナンスをしていない場合は保証修理対象外になりますので、ご注意下さい。

警告!!

- 後部シートに人を乗せる場合、マフラーでヤケドをしないように必ず後部乗員がペダルに足を置くことを確認してください。
- 二人乗りをする場合は左側から乗車し、火傷を防止するために必ずステップの上に足を置いてください。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。点検やメンテナンスを行う時はヤケドをしないようにくれぐれも注意して下さい。
- 走行後、マフラーは大変熱くなっています。他の人がマフラーでヤケドをしないように車輛を駐車する場所にも充分注意を払いましょう。

ご注意:

スクーターの改造はその構造や性能に悪影響を与え、寿命が短くなる恐れがあります。また、保安基準に適合しなくなるような改造は絶対におやめ下さい。改造車輛は保証修理の対象外になりますので、ご注意下さい。

5. ドライビング

走行にあたっては身体の使用箇所、すなわち腕、手のひら、腰やつま先を常にリラックスさせ、一番楽な姿勢で乗るようにしましょう。必要な時に素早く反応できるように常に心がけて乗りましょう。

- 運転者の姿勢は安全走行に大きく関係します。常に身体の重心がシートの真ん中にあるようにして下さい。もし、身体の重心がシート後部にあると前輪への負荷が減り、ハンドルが取られるようになります。不安定なハンドルでの二輪車走行は大変危険です。
- ターンする時は運転者が身体をターンする方向に傾けるとよりターンしやすくなります。反対に運転者が身体と車輻を傾けないと運転者は不安定に感じます。
- でこぼこ道、未舗装道路での二輪車の操作は難しいので、事前に道路状態を察知するようにして下さい。そしてスピードを落として、ハンドル操作は肩の力を抜いて走行しましょう。
- **お願い:** 不用意にステップフロアの上に物を置かないで下さい。安全走行の妨げにもなりますし、ハンドル操作にも影響します。



ご注意:

荷物を積むと、積まない時に比べてハンドルの感覚が変化しますから注意しましょう。積み過ぎるとハンドルがとられて運転を誤ることがありますので、積み過ぎに注意しましょう。



ご注意:

- 布などの燃えやすい物をボディカバーとエンジンの間に置いたりしないで下さい。車輛火災の原因になります。
- 指定場所以外に荷物を載せないで下さい。車輛を傷めます。

ワンポイントアドバイス

慣らしはスクーターのパフォーマンスを活かし、寿命を延ばします:
最初の1ヵ月、1000km はエンジンや構成部品の慣らし期間です。
急加速や全開走行は避けて、60km/h に抑えて走行して下さい。

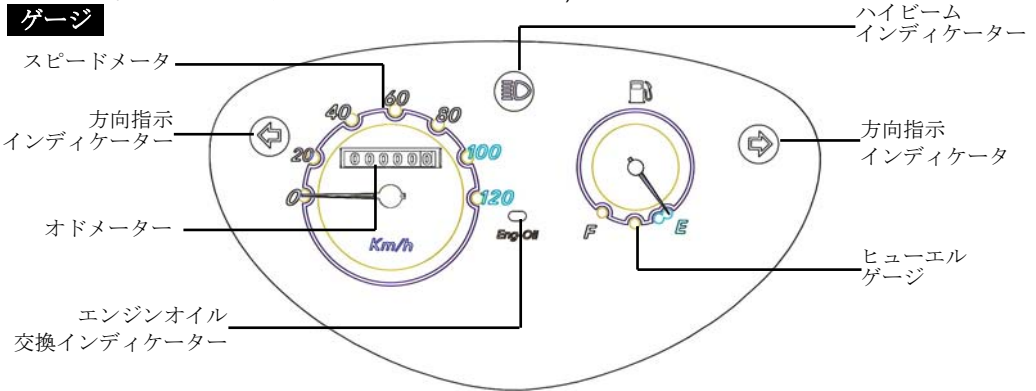
8. 純正スペアパーツの使用

二輪車の最高の性能を維持する為に各パーツの品質、素材、精密性はもとの設計が要求するものに適合する必要があります。“SYM 純正パーツ”はお乗りいただいている車輛と同品質の素材が使われています。高度な技術と厳格な品質管理を通して生産される“SYM 純正パーツ”を“SYM 特約店”からご購入下さい。廉価品や共用パーツを使用された場合はメーカー保証の対象とはなりません。またトラブルの原因や二輪車の性能を低下させる恐れがあります。

- あなたの二輪車を安全快適に保ち、より長く使用できるように **SYM 純正スペアパーツ** を使用しましょう。

(以下の説明は、SYM 4 ストローク空冷 100c.c. スクーターの基本操作ですので、個々のモデル仕様により異なります。マニュアルの最後のページをご参照ください)

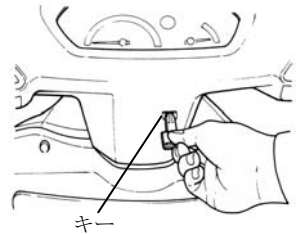
ゲージ



⚠ 注意!

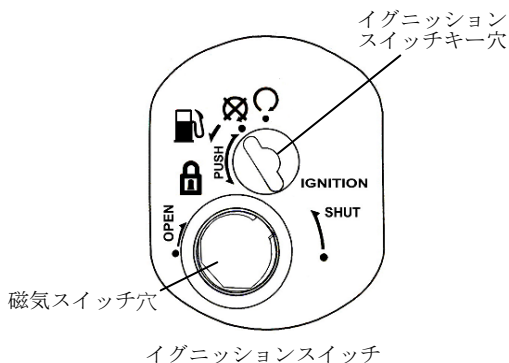
- ガソリンなどの有機溶剤でインストルメントパネルや、ヘッドライトなどのプラスチック部材を拭かないでください。部材が傷つく恐れがあります。

- スピードメーター：**
このスクーターの走行速度を表示します。
- オドメーター：**
このスクーターの総走行距離をキロメートル表示します。
- ハイビームインディケータ：**
このインディケータはハイビームになったときに表示されます。
- 方向指示インディケータ：**
方向指示灯が点いているときに指示に従い、左・右のインディケータが点滅します。
- ヒューエルゲージ：**
ゲージのポインターはタンク内燃料残量を表示します。
キースイッチを“OFF”に回すと、ポインターは“E”を指します。
- エンジンオイル交換インディケータ：**
エンジンオイル交換指示灯はオイル交換時期お知らせします、色によって判別します、普段は緑、最初の 1,000KM くらいに、指示灯が赤になります。即ち、交換時期と示す。検査後もしく交換後、図のようにキーを解除孔に挿し、指示灯が緑に切り替えます。車輛は 1000KM ごとに検査が必要です、状況によって足したりしてください、3,000KM ごとにオイルを交換してください。
- ゼロリセットボタン**
 - リセットボタンを定期的に操作してください。
 - ゼロにリセットするにはボタンを押します。
リリースされるとボタンは元の位置に戻ります。



7. ドライビング
8. 純正スペアパーツの使用

イグニッションスイッチの操作



イグニッションスイッチキー

"スタート" ポジション

- この位置でエンジンは起動します。
- イグニッションスイッチキーは抜き取れません。

"ストップ" ポジション

- エンジンがかかっていませんので、このポジションではエンジンは起動しません。
- イグニッションスイッチキーは抜き取れます。

"ハンドルロック" ポジション

- ハンドルを左に振り、キーを“ハンドルロック”の位置まで左に回してください。
- このポジションでハンドルはロックされます。イグニッションキーは抜き取れます。
- ロック解除は、キーを“ハンドルロック”から“ストップ”に回すと解除されます。

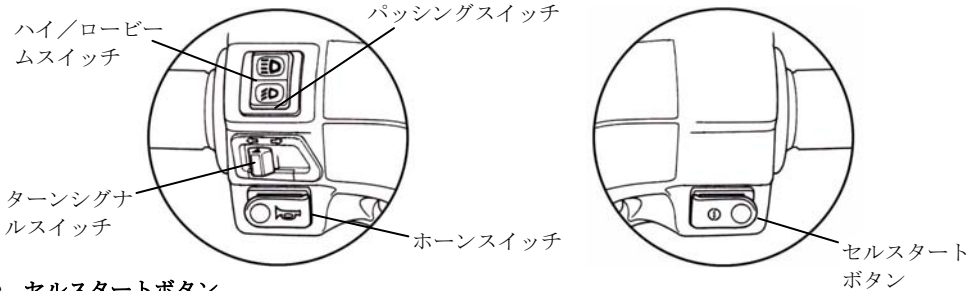
"ガソリンキャップオープン" ポジション

- この位置でガソリンキャップが開きます。イグニッションスイッチキーをイグニッションスイッチに挿し込み、左に回してください。
- 閉めるとき、ガソリンキャップを押してください。自動的にロックされます。

注意！

- 車両が動いている間はイグニッションキーを絶対に操作しないで下さい。イグニッションスイッチを“OFF”や“LOCK”に回すと、電気システムが閉じられ、非常に危険な事故につながります。イグニッションスイッチは車両が完全に止まってからオフにしてください。
- 車両から離れるときは、常にハンドルロックをかけ、必ずキーを抜き取ってから離れてください。
- エンジンを止めた後、イグニッションスイッチが“ON”ポジションに長時間したままにするとバッテリー容量が落ち、エンジン始動時に影響が出るので気をつけてください。
- 必ずキーを抜き取ってから、シートロックをしてください。

ボタンの使い方



セルスタートボタン



エンジン始動のセルモータースタートボタンです。

メインスイッチが“ON”の時にフロント、またはリアブレーキレバーを引いた状態でこのボタンを押してください。

注意！

- エンジン始動後は、すぐこのボタンから手を離してください。更にボタンを押すとエンジンを痛めます。
- このメカニズムは安全のためのものです。前・後いずれかのブレーキレバーを使用していないとエンジンがかかりません。
- ライトシステムは使用しないでください。エンジンがかかったら、ヘッドライト、及びシグナルライトを“OFF”にしてください。

ハイ/ロービームスイッチ

ヘッドライトのハイ又はロー切り替えスイッチです。このボタンを押してハイ又はロービームにします。



ハイビームの状態



ロービームの状態（町中での走行時はロービームにしてください）

パッシングスイッチ

PASSING

イグニッションスイッチを“ON”にしてこのボタンを押してください。ヘッドライトはハイビームになり、前方車両にこちらの追越し意思を伝えることができます。（この時、ハイビームインディケーターが表示されます）離すと、このボタンはオリジナルポジションに戻ります。

ホーンスイッチ



イグニッションスイッチが“ON”にある時、このボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

ホーンを鳴らす必要がない時には、このボタンを押さないでください。

注意！

ターンシグナルスイッチ

ターンシグナルスイッチは左・右に曲りたい時または、走行レーンを変更する時に使います。イグニッションスイッチを“ON”にして、ターンシグナルスイッチを左、又は右にスライドさせます。解除するときは、ターンシグナルライトボタンを元の位置に戻してください。



ライトサイドターンシグナルライト点滅は右方向へ曲ることを表します。



レフトサイドターンシグナルライト点滅は左方向へ曲ることを表します。

9. 各種機能の使い方

ヘルメットフック

- シートを開け、フックにヘルメットのあご紐を掛けてシートロックしてください。

⚠ 注意！

- 安全と車両の損傷を防ぐ為に、通常運転中はフックにヘルメットを掛けておかないでください。

シートロック

- 解除：**
シート左下（フロント下）にイグニッションキーを挿し込み、右へ回して解除してください。
- ロック：**
シートを押し下げると自動的にロックされま
す。シートロック後、シートを軽く持ち上げて、
しっかりロックされているかを確認してくだ
さい。

⚠ 注意！

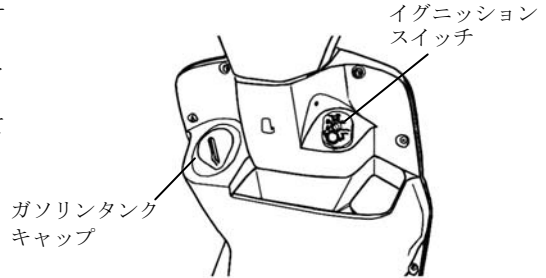
- シートロックをかけた後はキーを抜き取ることを忘れないでください。
- キーをシート下ボックスの中に置かないようにして下さい。シートが勝手に閉まってシートロックがかかり、キーが取れなくなることがあります。

シート下収納ボックス

- シート下にボックスはあります。
- 最大積載量は10キログラムです。
- 貴重品は入れないでください。
- シートロックをかけた後は、ロックがしっかりかかっているか必ず確認してください。
- 水濡れするので、洗車する時は高価なものをボックスに入れたままにしないでください。
- エンジン熱で高温になるので、熱に弱いものはこの中に入れしないでください。

ガソリントankキャップ 【給油】

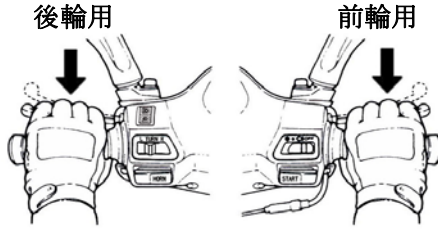
- イグニッションスイッチキーを入れ、左に回すとガソリントankキャップは開きます。
- ガソリンを補充してから、ガソリントankキャップは右に回して抑えてしめます。
- “カチッ”というロックの音がするまで締めて下さい。



⚠ 注意！

- 給油の際にはメインスタンドがしっかりと地面に固定され、エンジンがかかっていない状態で、車体が安全な状態にあることを確認してください。
- 給油の時、上限を超えて給油しないでください。ガソリンがキャップの穴から溢れて、車体塗装を損傷することになります。また火事が起きて車両を焼失することもあります。
- キャップがしっかり閉まったかを確認してください。

ブレーキ



- 不必要な急ブレーキは避けてください。
- ブレーキをかける時は、前輪・後輪のブレーキを同時にかけてください。
- 長い間連続的にブレーキをかけることは避けてください。ブレーキが加熱し、制動効果が下がります。
- 雨の日や、滑りやすい道路での走行時は、スピードを十分に落としてからブレーキを早めにかけてください。
- フロントブレーキだけとか、リアブレーキだけかけることは2輪車の性格上、片側に引っ張られて転倒し易くなります。片側だけのブレーキ使用は避けてください。

《エンジンブレーキ》

スロットルバルブをオリジナルポジションに戻してエンジンブレーキをきかせて下さい。

長距離走行や、険しいスロープなどではハンドルブレーキとエンジンブレーキを組み合わせ併用することが必要です。

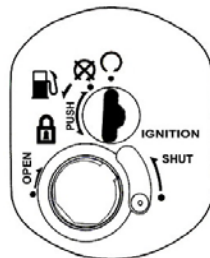
8. エンジン始動時の重要事項と注意

⚠ 注意！

- エンジン始動前に必ずエンジンオイルと、ガソリンが充分あるかをチェックしてください。
- メインスタンドが安定した状態でエンジンを始動してください。車両が突然動き出すことがありますので、リアブレーキをかけることを忘れないでください。

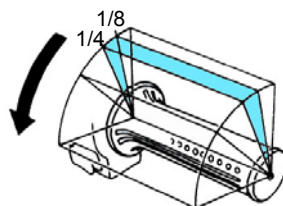
イグニッションスイッチを“ON”ポジションまで回して下さい。

1. ハンドリアブレーキをかけてください。



2. アクセルを吹かさなでください。ブレーキをかけた状態でスターターボタンを押してください。

[ご注意ください：動き出すまでハンドリアブレーキをかけたままにして下さい。]



⚠ 注意！

- スターターモーターを3～5秒回してもエンジンが始動しない時は、スロットルバルブを1/8～1/4回転ほど回してスターターボタンを押してください。
- スターターボタンを15秒以上連続して押し続けしないでください。スターターモーターを傷めます。
- スターターボタンを15秒以上押してもエンジンが始動しない時は、その後10秒ほど経ってからかけ直してください。
- 長い間エンジンをかけることがなかった車両や、ガソリンが空のままに給油したばかりの車両はエンジン始動に少し手間がかかります。スターターボタンを何回も押す必要があるでしょう。
- エンジンが冷えている時は、エンジンが温まるまで数分かります。
- 排気ガスには有害物質(CO)が含まれています。よく換気のきいたところでエンジンを始動させてください。

【スターティングレバーでエンジン始動する時】

- ステップ1の後、スロットルバルブをとじたままスターティングレバーをカー杯押して下さい。
- エンジンが冷えてスターティングレバーで始動が難しい時は、スロットルバルブを1/8～1/4回転開けてやると、エンジン始動がしやすくなります。
- エンジン始動後はスターティングレバーをオリジナルポジションに戻してください。

⚠ 注意！

- スターティングレバーでエンジンを始動させる場合、車両をメインスタンドでしっかり安定させた状態で行ってください。
- 時々、スターティングレバーを使ってエンジン始動するよう心がけてください。長い間使用しないしていると機能なくなることがあります。

- 走り出す前に方向指示器をつけてください。後方から車両が来ていないことを確認してください。それから走り出してください。

スロットルバルブハンドルコントロール

加速：スピードを加速すること



減速：スピードを減速すること

駐車方法

- 駐車場所に近づく時：
 1. 早めに方向指示器をつけてください。前後、左右の車両に注意して道路左側にゆっくり寄ってください。
 2. スロットルバルブをオリジナルポジションに戻して、早めにブレーキをかけてください。（ブレーキをかけることによりブレーキライトが点灯し、後続車両に注意を促すこととなります）
- 完全に止まる時：
 3. 方向指示器をオリジナルポジションに戻して、イグニッションスイッチを“OFF”ポジションまで回してエンジンを切ります。
 4. エンジンが完全に止まってから車両左に降りてください。交通妨害にならない、安定した駐車場所を選び、メインスタンドを下ろします。
 5. 左手でハンドルを持ち、シート前先端を掴むか、右手でシート左下のパーキングハンドルを掴んでください。
 6. 右足でメインスタンドを押し、地面にしっかりメインスタンドが安定するように下ろして下さい。

忘れないで：ハンドルロックをかけ、駐車後は車両盗難にあわないようキーを抜き取って下さい。

注意！

- 交通妨害にならない安全なところに車両を駐車してください。

(下記コンポーネントについては前記コンポーネントロケーションダイアグラムをご参照ください)

日常の点検

チェック項目		チェックキーポイント
エンジンオイル		エンジンオイル量は充分ですか？
ガソリン		ガソリン量は充分ですか？ハイオクガソリンですか？
ブレーキ	前輪	ブレーキング状態は？ (ブレーキレバーの遊び 10～20mm)
	後輪	ブレーキング状態は？ (ブレーキレバーの遊び 10～20mm)
タイヤ	前輪	空気圧はノーマルですか？ (標準 1.75kg/cm ²)
	後輪	空気圧はノーマルですか？ (標準 2.25kg/cm ² /1人乗車時、2.5kg/cm ² /2人乗車時)
ステアリングハンドル		ハンドルが異常に揺れませんか？動かしづらくありませんか？
スピードメーター、 ライト、バックミラー		正しく作動しますか？ ライトは点灯しますか？後方は確認できますか？
メインコンポーネントの締め付け状態		ボルト、ナットの脱落はありませんか？
異常ポイント		以前のトラブルは直っていますか？

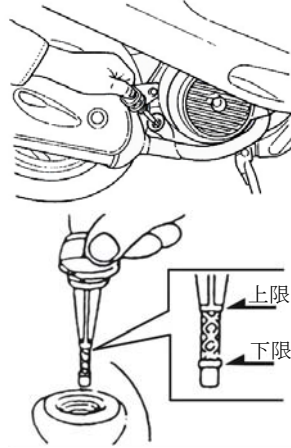
注意！

- 日常点検で何か問題が見つかった時は、“SYM 正規代理店又は正規サービス店” に車両を持ち込み、修理依頼してください。

エンジンオイルの点検と交換

オイル点検：

1. メインスタンドを使用して安定したところに車両を置いてください。エンジンを止めてから3～5分後にディップスティックを抜いてください。ディップスティックのオイルを抜き取り、ガイドチューブに挿入してください。（回転させないでください）
2. ディップスティックを抜き取り、オイルレベルが上限、下限の間にあるかどうか確認してください。
- オイルレベルが下限より下の時は、上限までオイルを入れてください。（シリンダー、クランクケースほかオイル漏れがないかどうか確認して下さい）



オイル交換：

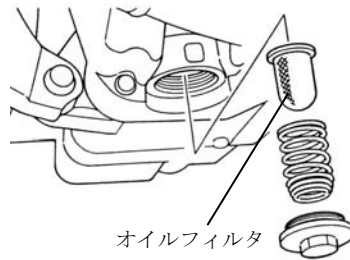
- 最初の 300km 走行時にエンジンオイルを交換してください。以降 1000km 毎にオイルを交換して下さい。
- エンジンパフォーマンスを最大限に維持する為にもエンジンオイル量は 500km 毎にチェックしてください。エンジンオイル量が不足なときは上限までオイルを足してください。
- エンジンオイル：API SH,SAE 10w-30 グレード以上のものをご使用ください。上記グレード以下の品質のオイルをご使用の場合、メーカー保証は出来ません。

※ ご推奨オイル： **SYM Genuine EXTRA 4X OIL.**

オイル容量：0.85 リットル（定期交換は 0.7 リットル）、オイルフィルター交換：0.85 リットル

【オイルフィルター洗浄】

エレメントフィルターナットアセンブリーを開けます。ガソリンまたはエアスプレーガンを使って異物を取り除いてください。



⚠ 注意！

- 車両が平坦でないところに止められた時やエンジンを切ったすぐの時にオイルをチェックしてもオイルレベルは正しく確認できません。
- エンジンを切ったすぐの状態ではエンジン、マフラーは熱くなっています。エンジンオイルのチェックや交換時に火傷をしないよう、特に注意してください。

ガソリンの点検

- メインスイッチを“ON”ポジションにして、ヒューエルゲージ針がガソリンタンク内にガソリンが充分にあるかを指しているかをチェックしてください。
- この車両は無鉛の 90 以上のガソリンを使用するように設計されています。
- 給油の際は、メインスタンドで安定したところに車両を止めてエンジンを切り、火気を遠ざけて給油してください。
- 給油時、上限以上給油しないでください。
- ガソリン給油口のふたがしっかり閉まっているか確認してください。

トランスミッションオイルの点検と交換

点検：

- 安定した場所にメインスタンドを使用して車両を止めます。エンジンを止めてから 3~5 分お待ちください。トランスミッションオイルインフュージョンボルトを外し、ドレインボルトの下に計量グラスを置いてからドレインボルトを外してください。オイルを計量グラスで受け、減っているかどうかを確認してください。（分解時： 110 c.c. / 交換時： 90~100 c.c.）

オイル交換：

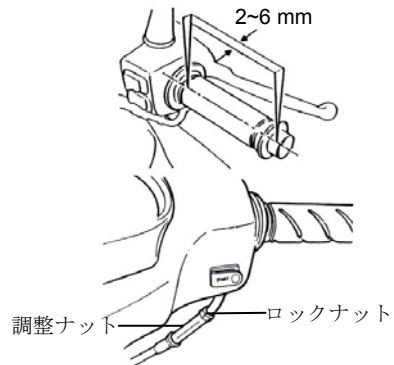
- エンジンを切り、メインスタンドを使用して安定した場所に車両を止めてください。インフュージョンボルトと、ドレインボルトを外してからオイルを抜き取ってください。
 - ドレインボルトを戻し、しっかりと締めてください。新しいトランスミッションオイル (90cc~100cc) を入れてください。インフュージョンボルトを戻し、しっかりと締めてください。（ボルトがしっかり閉まっているか、オイル漏れがないかを確認してください）
- ※ 推奨オイル：純正 SYM ハイポイドギアオイル(SAE 85W-140)

スロットルバルブクリアランスの調整

- 2~6 回転するよう、スロットルバルブハンドルのクリアランス調整して下さい。
- ロックナットを緩めて、調整ナットで調整して下さい。ロックナットを終わりまでしっかりと閉めてください。

点検アイテム：

1. スロットルバルブが閉じた状態から開いた状態までスムーズに動くかバルブケーブルを視認してください。
2. スロットルバルブケーブルが邪魔になっていないかハンドルを右から左に動かして確認してください。
3. スロットルバルブケーブルがスムーズに動くよう他のケーブルで動きにくくなっていないかを視認して下さい。

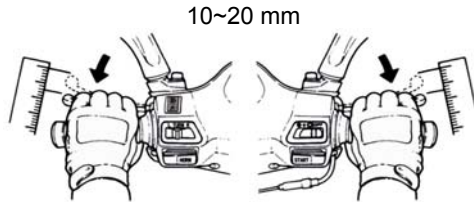


ブレーキの遊びの点検と調整

点検：（ブレーキレバーの遊びは必ずエンジンを切ってから行ってください）

• 前・後輪ブレーキレバーの遊び

前・後輪のハンドブレーキの点検をする時は、遊び（ブレーキレバーを握ってからブレーキが利き始まるまでのストロークは10～20mmにしてください。カー杯ハンドブレーキを握った時にスポンジを握ったような感じの時は異常です。



調整：（ドラムタイプ）

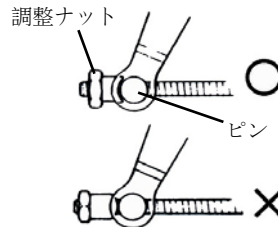
- ブレーキ調整ナットと閉めるピンは直接的に動きます。

（下図参照）

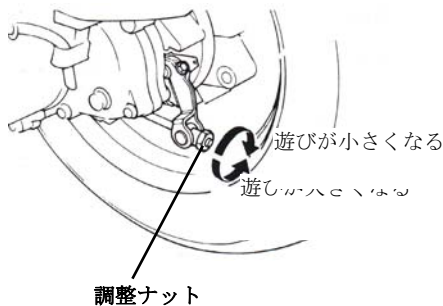


注意！

- 遊びが10～20mmの時は、前・後輪のブレーキインディケーターを調べてください。もしブレーキアームの矢印がブレーキディスクの“Δ”マークと符号していれば、ブレーキライニングが磨耗し過ぎている状態なので、すぐに交換して下さい。



- 前・後輪ブレーキアームの調整ナットを回してハンドブレーキの遊びを調整してください。
- 両方調整後はハンドブレーキを握ってみて、効果的なブレーキ感覚を確認してください。
- ルールを使って遊びを計ってください。

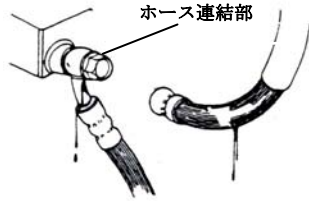


後輪 ドラムタイプ

ディスクブレーキの点検（ディスクブレーキ装置車に適用）

（漏れ、損傷、ブレーキラインの緩み）

- 目で見えてブレーキラインの漏れ、損傷を確認してください。レンチまたは同様の工具によりブレーキライン連結部の緩みがないかを確認して下さい。ステアリングハンドルの振動がないか、ブレーキラインに損傷を起しそうな部分をチェックしてください。万一異常があれば、車両をSYM代理店に持ち込み、修理をするか整備を受けてください。



⚠ 注意！

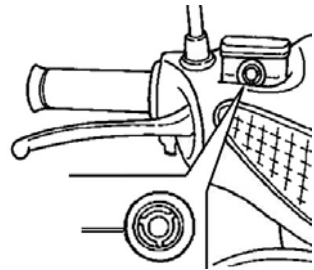
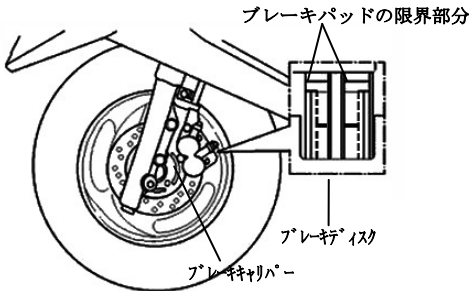
- あなたの車両が最適の状態状態で安全に走行できるかを確認める為に、乾燥道路面でゆっくりと車両を走らせ、前・後輪ブレーキを操作して不具合がないかを確認して下さい。

（前輪ブレーキライニングの点検）

ブレーキキャリパーの後方からブレーキを点検してください。ブレーキパッドの限界部分がブレーキディスクにあたっている時は、ブレーキパッドを交換して下さい。

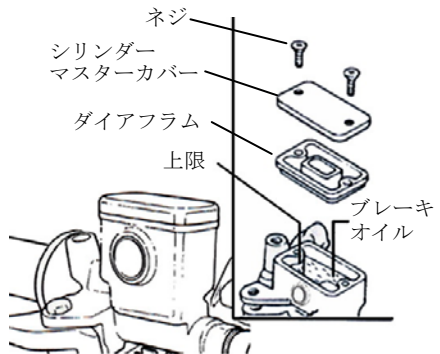
（ブレーキオイルリザーバーの油量点検）

車両が安定した場所に止めてから、オイルレベルが“LOWER”マークの下にあるかどうかをチェックしてください。推薦ブレーキオイル：WELL RUN BRAKE OIL (DOT 3).



（前輪ブレーキオイルの補充）

- ネジを緩めてマスターシリンダーカバーを外してください。
- リザーバーまわりの異物や、汚れをふき取ってください。リザーバーの中に異物が入らないよう慎重にしてください。
- ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを外してください。
- ブレーキオイルを上限まで加えてください。
- ダイヤフラムプレートとダイヤフラムを戻してマスターシリンダーカバーをつけて下さい。
- ダイヤフラムの向きに注意して下さい。リザーバーの中に異物が入らないようにしてください。マスターシリンダーカバーをしっかりと閉めてください。

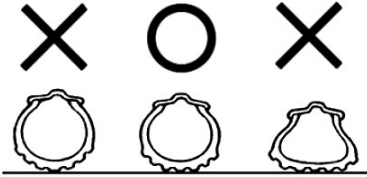


⚠ 注意！

- 化学反応の危険がありますので、推薦品以外のブレーキオイルは使用しないでください。
- ブレーキオイルを追加するときは上限を超えて入れないでください。車両を傷めるのでオイルが塗装部分やプラスチック成型コンポーネントにつかないようにしてください。

タイヤの点検

- タイヤはエンジンを切ってから点検や、空気入れをしてください。
- タイヤの接地面の形状が異常な時は空気圧ゲージでチェックの上、規定圧まで空気を入れて下さい。
- 寒い時は空気圧ゲージによりタイヤ空気圧のチェックをしてください。



標準タイヤ空気圧のスペックをご参照ください

- クラックや損傷はタイヤ前面、横面まで視認してください。
- タイヤ溝に釘や小石がかんでいないか視認してください。
- トレッドグロブが充分かどうかトレッドウエアマークをチェックしてください。
- ウエアバーが見えるタイヤは磨り減っていますのですぐに取り替えてください。



⚠ 注意!

- タイヤの異常空気圧、ウエア、クラックはハンドル操作が出来なくなり、パンクの一番大きい原因となります。

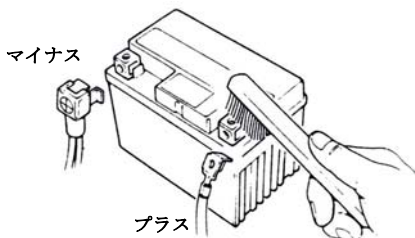
ステアリングハンドルフロントショックアブソーバーの点検

- この点検をする時はエンジンを切り、イグニッションスイッチキーを抜き取ってから行って下さい。
- フロントショックアブソーバーの損傷を視認してください。
- ハンドルを上下に動かして、フロントショックアブソーバーの音や傾きをチェックしてください。
- レンチでフロントショックアブソーバーのボルト、ナットの締め具合をチェックして下さい。
- ハンドルを上下、左右、前後に揺らして、緩みや過剰な抵抗や、一方に引っ張られたりしないかチェックしてください。
- ブレーキケーブルにより、片方に引っ張られ過ぎないかハンドルをチェックしてください。
- 万一異常が発見された場合は、SYM 正規代理店か取扱店に車両を持ち込み、点検や調整を受けて下さい。



バッテリーの点検とメンテナンス

- この車両はメンテナンスフリータイプのバッテリーを装備しておりますので点検も通電確認も不要です。万一異常が見つかったときはSYM正規代理店または取扱店に車両をお持ちください。
- (バッテリーターミナルクリーニング)
- バッテリーターミナルを外し、汚れや腐食があれば、清掃して下さい。
 - バッテリーの取り外し手順：
イグニッションスイッチを“OFF”にして、バッテリーキャビネットドアを開けます。先ずマイナス側ケーブルのネジを取り、ケーブルを外します。それからプラス側ケーブルを取り、ケーブルを外します。



⚠ 注意！

- バッテリーポストが腐食していたり、白粉が付着している場合は熱湯でポストを清掃してください。
- ターミナルにはっきりとした腐食がある場合は、ケーブルを外して金ブラシかサンドペーパーで拭き落としてください。
- 清掃後はターミナルに薄くグリースを塗り、バッテリーケーブルを取り付けてください。
- バッテリーケーブルは取り外しの時と反対の手順で取り付けてください。

⚠ 注意！

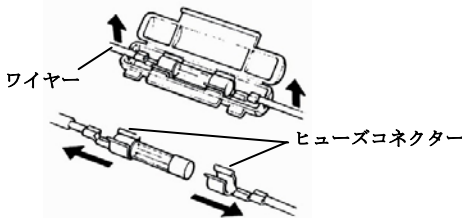
- 密閉タイプのバッテリーですのでキャップは絶対にはずさないでください。
- バッテリーが電気漏れや、自己放電で使用不可にならないよう長期間放置したままにしないでください。長期間使用しない時は、バッテリーを車両より外し、充電後、通風のきいた暗いところに保管してください。車両にバッテリーを搭載のままの時はマイナスケーブルをはずしておいてください。
- バッテリー交換が必要な時は同様の密閉タイプのメンテナンスフリーバッテリーを使用してください。

ヒューズの点検と交換

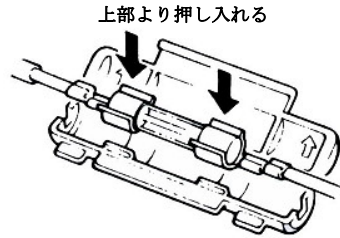
イグニッションスイッチを解除し、ヒューズが完全かどうか点検してください。切れたヒューズを同じアンペア (7A) の新しいヒューズと入れ替えてください。7 アンペア以上のヒューズを使用しないでください。電気システムや回路に損傷を与えますので、絶対に切れたヒューズ交換に銅線や鉄線を使用しないでください。

- シートボックスをはずすとテールライト近くにヒューズボックスがあります。
- ヒューズボックスカバーを開け、ヒューズを取ります。損傷の有無をチェックしてください。
- 交換するとき、ヒューズはワイヤーコネクタとしっかり締めてください。締めが甘いと過流や損傷の原因となります。
- ライト球のような電気コンポーネントを交換する時はスペックに適った部品だけを使用して下さい。
- 車両を洗車するときは水がヒューズボックスに直接・間接にかからないようにしてください。
- 万一原因不明でヒューズがとんだ場合は、車両を最寄の販売店にご相談ください。

【取出】



【取付】



方向指示器とホーンの点検

- イグニッションスイッチを“ON”ポジションに回してください。
- 方向指示器の前後、左右の点滅をチェックしてください。
- 方向指示器のカバーの汚れ、クラック、緩みをチェックしてください。
- ホーンボタンを押して作動するか点検してください。警笛が鳴るかをチェックしてください。

⚠ 注意！

- 方向指示器ライトには規定のスペックのバルブを使用してください。もし異なったスペックを使用すると通常の方向指示器の作動に支障が生じる可能性があります。
- 後続車の運転者に注意を促す為方向変更やレーン変更の前には方向指示器を点けてください。
- 方向指示器は使用後直ちにボタンを押して解除してください。もしそのまま点けたままですと、後続車の運転者に方向指示器の点滅で迷惑になります。

フロント及びリアライトの点検

- イグニッションスイッチを“ON”の位置に回し、エンジンを始動してフロントライトのスイッチを入れてください。
- フロントライトの明るさと方向を壁に当ててチェックしてください。
- フロントライトカバーの汚れ、クラック、緩みがないかをチェックしてください。

ブレーキライトの点検

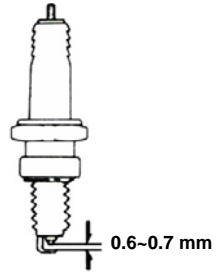
- イグニッションスイッチを“ON”の位置に回し、前後輪のハンドブレーキを握ってください。ブレーキライトの点灯を確認してください。
- ブレーキライトカバーの汚れ、クラック、緩みをチェックしてください。

⚠ 注意！

- 必ず規定のスペックのバルブを使用してください。もし異なったスペックのバルブを使用すると電気システムに損傷が出たり、バルブ焼けやバッテリー放電が生じます。
- 過電やショートを避けるため、電気コンポーネントを改造したり、追加したりしないでください。ひどい場合には火事や車両焼失につながります。

スパークプラグの点検

- スパークプラグケーブルのキャップを外してください。
(スパークプラグレンチを使ってスパークプラグを外してください)
- 電極の汚れ、カーボンかすによる汚れがないかチェックしてください。
- 電極のカーボンかすは金ブラシで取ってからガソリンでスパークプラグを洗浄し、ぼろで拭いて乾かしてください。
- 電極をチェックしてギャップを **0.6~0.7 mm** に調整してください。
(フィーラーゲージで計ってください)
- スパークプラグは手締めした後にレンチで更に **1/2~3/4** 回転締めて下さい。



⚠ 注意！

- 走行後エンジンは大変熱くなっています。火傷をしないように充分注意してください。
※ メーカー推薦のこの車両にあるエンジンスペックに適ったスパークプラグのみを使用してください。(スペック参照)

ガソリン漏れ点検

- ガソリントank、給油キャップ、ガソリンホース、キャブレターなどの漏れをチェックしてください。

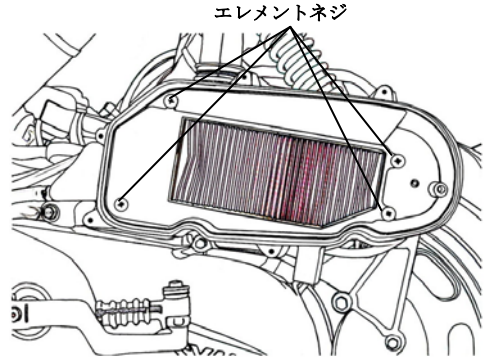
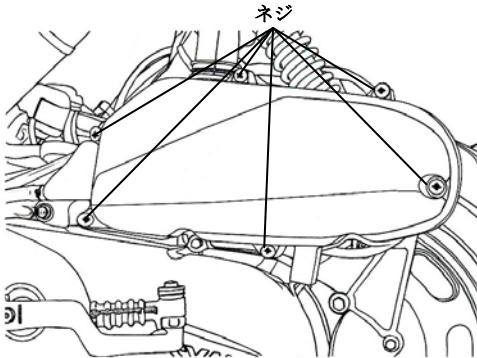
車体各部の潤滑系構造の点検

- 車体ピボット部分の潤滑油が充分かどうかをチェックしてください。
(例えば、メインスタンド、サイドスタンド、ブレーキレバー等のピボット部分)

エアクリーナーの点検

〈分解手順〉

1. エアクリーナーカバーからマウンティングネジをはずしてください。
2. エアクリーナーカバーをはずしてフィルターエレメントを取り外してください。
3. エレメント取り出し、洗浄してください。（メンテナンススケジュール参照）



〈組付手順〉

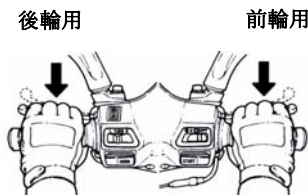
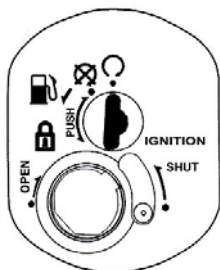
- 分解の時と反対手順にて組付けてください。

⚠ 注意！

- 付着ほこりは出力減少やガソリン浪費の大きな原因のひとつです。
- ほこりっぽい道を走行する場合はエアクリーナーエレメントを頻繁に清掃または交換してください。
- エアクリーナーが正しく装着されていないとほこりがシリンダー内部に吸収され、早期磨耗を起し出力減少やエンジン寿命を短くすることになります。
- 車両を洗浄する時はエアクリーナーを水浸しにしないように注意してください。エンジン始動が困難になることがあります。

11. 異常事態やトラブルの場合

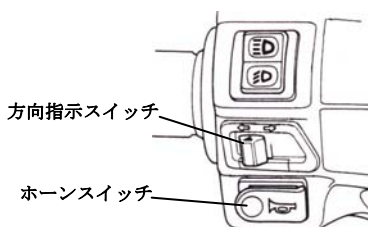
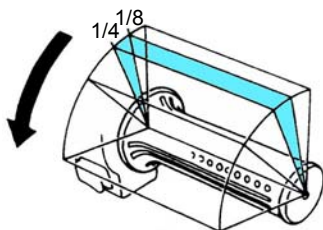
エンジンがかからない時の診断



(1). イグニッションキーは“ON”ポジションにありますか？

(2). ガソリントankにガソリンは充分ですか？

(3). スタートボタンを押すときには前または後ろブレーキをかけていますか？



(4). スタートボタンを押しながらスロットルバルブを回していませんか？

(5). イグニッションキーを“ON”にして警笛ボタンを押してください。もし警笛が鳴らない時はフェーズがとんでいるかもしれません。

【上記に該当するところがなくエンジンが起動しない場合は、すぐにSYM正規代理店か取扱販売店に車両を持ち込みチェックを受けてください】

14. C.D.I. 電気イグニッションシステム

コンデンサーの充電や放電原理はC.D.Iシステムに流れてくるジェネレーターコイルにより作られた電気エネルギーをイグニッションコイルに供給します。そしてこのイグニッションコイルがスパークプラグが必要とするスパークを発電するのです。


15. ガソリンについて

- この車両はNO.90以上の無鉛ガソリンを使用するように設計されています。
- 高地（気圧が低いところ）でのこの車両を使用になる場合は、エンジン性能を最大に発揮させる為にエアガソリンの程度を再調整することをご提案いたします。

16. トランスミッションオイル


- 推薦オイル：純正 SYM HYPOID ギアオイル (SAE 85W-140)

1. メインスタンドをあげて車両を起こし、シートに座ってください。
メインパーキングスタンドをあげて車両を前方に押し出してください。

 **注意！**


- 始動前にエンジン回転を上げるために無理にスロットルバルブを回さないでください。

2. 車両の左側から乗車して、車両を倒さないように足をしっかり地面につけて正しくシートに座ってください。

 **注意！**

- 始動前に後輪のブレーキをかけてください。

3. スロットルバルブをゆっくり回すと車両は動き始めます。

 **注意！**

- 急激なスロットルバルブの扱いは車両が突然前進し、大変危険です。
- 始動前にパーキングスタンドがしっかり戻っているか確認してください。

【急ブレーキはかけないでください。転倒を引き起こします。】

- 急ブレーキと急ターンはスリップや転倒を引き起こします。
- 急ブレーキや急ターンはスリップ、横滑りを引き起こし、路面が濡れてスリップしやすい時、雨の日は特に転倒する原因になります。

【雨の日は細心の注意を払って走行してください】

- 雨の日や濡れた路面でのブレーキの制動距離は乾燥路面とくらべて長くなります。スローダウンをするか早めのブレーキ操作をしてください。
- くんだり道ではエンジンブレーキを併用して安全運転走行してください。

項目	モデル	X'pro 100 HK10V SERIES
	スペック	
全長		1750 mm
全幅		615mm
全高		1065 mm
軸間距離		1225 mm
乾燥重量		88 kg
種類		4- ストローク シングルシリンダーエンジン
燃料		無鉛(90以上)
冷却		空冷
ディスプレイメント		101 cc
コンプレッションレイシヨ		9.9 : 1
最大出力		5.2 kw / 7500 rpm
最大トルク		6.9 Nm / 6000 rpm
始動方法		セル&キック式
フロントサスペンション		テレスコップ
リアサスペンション		ユニットスイング
クラッチ		乾式多判
トランスミッション		CVT (Vベルト無段自動変速式)
前輪		90 / 90-10 50J
後輪		90 / 90-10 50J
ホイール		スチール
タイヤ空気圧	前：標準1.75 kg/cm ² , 後：標準 2.0 kg/cm ²	1人乗車時、2.25 kg/cm ² 2人乗車時
フロントブレーキ		Disk type (Ø 160 mm)
リアブレーキ		Drum type (Ø 110 mm)
フロントライト球(high, low)		12V 18W / 18W X 2
ブレーキライト球(尾灯)		12V 5W / 18W
プレートライト球		12V 5W
方向指示ライト球		12V 10W
スピードメーターライト球		12V 3.4W
エンジンオイル容量	0.85 L (0.7 L 交換時)	※レベルゲージには0.6Lと表示がございますが左記数値が規定値となります。
トランスミッション容量		110 c. c. (100 c. c. 交換時)
ガソリタンク容量		6.3 L
ヒューズ		7A
点火プラグ		CR6HSA
バッテリー容量		12V 6Ah (密閉式、メンテナンスフリーバッテリー)
エアクリーナー		湿式ろ紙
ガソリタンクキャップ		オープンロック式
フロントライト		ジェネラル型 (シングル)
リアシート握り		荷物は積みません



保証約款

保証の発効

SYM の車両保証は、モータリスト合同会社と車両売買契約並びにアフター・サービス契約を締結した販売店（以下「SYM 取扱店」）が SYM 保証登録フォームへ必要事項を入力、送信後、有効となる。

保証期間

SYM の車両は、顧客が製品を購入しその製品の登録が完了した日から 12 か月間、本約款の規定に則り保証される。なお、本保証は新車を購入したオーナー（所有者）にのみ適用され、保証期間満了前に転売がおこなわれた場合には、保証の譲渡は認められない。

保証の内容

SYM の車両は、オーナーズマニュアルに記載された取扱要領に則った通常の取り扱いを行われて運用されていること、ならびに指定された定期点検を SYM 正規取扱店にて受検していることを条件として、生産上の欠陥、材質等に起因する不具合において、規定に従って修理または交換の実施を保証する。

保証修理の請求

保証修理のための移動、運搬は購入者の責任において、SYM 取扱店へ持ち込む必要がある。その際、登録書類、保証書、点検実施の確認のできる書類を持参する必要がある。

保証修理は SYM 取扱店の認められている作業場でのみ行うことができ、不具合の確認後直ちに行う必要がある。

保証の否認

保証修理適用の可否については、SYM 取扱店にて、購入車両と不具合を実際に診断した上で判断する。

使用者の遵守事項

道路運送車両法では日常点検と定期点検の実施が義務付けられている。定期交換部品、油脂類の交換は指定された頻度で行うこと。

ユーザーマニュアル記載の取扱い方法にしたがって適切に使用すること。

保証適用外の事項（以下の原因による故障または不具合は保証対象外）

通常の使用による摩耗、傷、自然劣化、自然退色

購入した製品を、取り扱いに関する指示書（ユーザーマニュアル、メンテナンススケジュールなど）に従わなかった場合購入した製品がサービスの提供を認可されていない作業場により整備された場合

SYM から使用が許可されていない部品が装備された場合購入した製品を SYM が許可しない方法で改造した場合

不注意または不適切な取扱いや誤用（競技等の目的で使用） 不適切な保管に起因した問題
機能や性能に影響のない感覚的な事象（音、振動、液体のしみなど） 転倒、追突、衝突などの事故に起因する不具合

天災および火災に起因する不具合

煤煙、降灰、酸性雨、オイル、薬品、鳥糞、塩害、飛石に起因する不具合

結露など、自然現象や環境条件に起因する不具合経年変化による劣化とみなされる症状
車両が盗難・放火・悪戯等により被った損害

SYM が指定した規格以外の燃料や油脂を使用したことに起因する不具合

異常を発見していたのにも関わらず放置、継続使用したことに起因、拡大した不具合

負担しない費用

消耗部品及び油脂類等（タイヤ・バッテリー・ブレーキパッド等を含む）

法令及び SYM が指定する点検整備、その他の点検、調整、清掃ならびに定期交換部品
車両を使用できなかったことによる損失（通信費、引き取り納車費用、交通費、宿泊費、休業補償、商業損失） SYM 純正品以外の部品

アクセサリやコンポーネントを車両に取り付け、接続したことによる動作の変化、純正部品の損傷、電気系の不具合、データ損失

保証期間内に確認された不具合にもかかわらず、保証期間終了後に報告した場合の修理費

その他

保証規定ののっとり取り外された部品はモータリスト合同会社の所有物となる。